

## 令和5年度 事業報告

### 1 事業の概要

長期に渡りマスク生活を強いられ、私たちの生活面においても数々の制限を受けてきましたが、5月の連休明けには新型コロナの5類への移行が決まり、少しずつではありましたが、コロナ前の生活に戻ろうと世の中は活気を帯びてきました。しかしながら、世界に目を向けるとロシアによるウクライナ侵攻が治まることなく続いており、10月にはイスラエルによるガザへの侵攻も始まり、原材料等の入手不足による物価高騰が生活へも大きく影響を及ぼしてきています。昨夏は、国連のグテーレス事務総長が地球沸騰の時代が訪れたと発言するほどの酷暑となり、人々が熱中症対策を日常的に行う必要性が求められました。そして、元日には能登半島を震源とする大きな地震が発生し、世界情勢や自然災害によって、それまでの日常を一瞬で非日常に姿を変えてしまう厳しい現実を目の当たりする年度となりました。

このような世代を背景にしながら、私たちの山武市シルバー人材センターは（以下、「センター」という。）、組織の活性化を目的とした新たな名称「えるワークさんむ」と共に、多くの事業活動を会員の協力を得て精力的に行ってきました。デジタル化の推進にあたっては、令和4年度の総務省デジタル活用支援推進事業の受託を受け、その際に規定の講習を終えた会員が講師となり、令和5年度にはセンター独自の教室を開催し、就業を行う高年齢者にとっての必要なスマートフォン（以下、「スマホ」という。）操作の安全な利用についての教室を年間通して開催しました。併せて、フリーランス法の対応を踏まえ **smile to smile** のアプリ（NRI 社会情報システム開発のシルバー専用アプリ）の登録を教室の最後に行い、導入への準備を始めました。

次に、令和4年度規模を拡大して行った安心安全就労サーベイ（以下、「測定会」という。）は2年目を迎え、広報紙の配布会員を中心に、測定会参加の意思表示をしている会員と各種委員会等の関係者である会員を中心として測定会を行いました。この事業は、高齢者福祉課の協力と安心安全就労アドバイザーである陣内裕成先生の監修のもとで行い、運営には多くの会員のボランティア協力を持って、5日間の日程を無事終えることができました。全国的に類を見ないこの事業の取組みについて、シルバー人材センター活性化議員連盟会長の自民党森英介代議士が訪問し、事業の様子を見ていただきました。併せて、全国シルバー人材センター事業協会やダイヤ財団も事業の見学及び体験を行い、取組みについての理解を深めていただきました。この事業については、市が転倒骨折予防プロジェクトについて発表を行った日本公衆衛生学会総会でも紹介されました。測定会の終了後には、腰痛持ちの会員を対象に個人で行う対処法レッスン会と、チームで取組むチーム研修会を開催し、自己管理によって腰痛を和らげるスキルを安心安全就労アドバイザーから教わりました。レッスン会に参加した会員からは、状態が向上したとの感想をもらえ引き続きの自己管理を促しました。

平均年齢が年々上昇するセンターにとって、会員の健康問題は重大な課題であることから、明るく元気な100歳へ向けた活動として、就業だけではない「えるワークさんむ」の活動を、積極的に行いました。特に、しばらく休止していた経験交流大会を復活し、就業以外の場面においてライフワークとして取組みを行っている研究の発表を行い、生涯現役力（自分らしくあるための姿）を紹介することができました。

このように、就業以外の分野においても積極的に事業活動を実施し、「えるワークさんむ」の魅力の発信を行いました。そこで、令和5年度の事業実績を次のとおり報告いたします。

会 員 数 正 会 員 4 5 7 人

(男性 3 0 1 人・女性 1 5 6 人)

特別会員 1 人

賛助会員 2 団体・4 人

事 業 実 績

	受託事業	派遣事業
受注件数	2, 9 3 2 件	2 8 件
契約金額	2 億 1 千 1 百万円	1 千 9 百万円
就業延人日	3 7, 9 8 7 人日	2, 9 0 4 人日
就業実人員	4 4 1 人	3 1 人
就業率	9 6. 5 %	
事故報告	傷害事故 2 件 物損事故 3 件	0 件 0 件

## 2 事業の報告

### (1) えるワークさんむ ～会員拡大～

高齢者が自分自身のライフスタイル向上のために就業を行うことへのイメージ一新を目的として、名称を新たに設定し事業を行い周知活動に努めました。少しずつではありますが、会員への浸透も始まってきました。

就業マッチングに役立てる手段として、安心安全就労サーベイ参加者に対して、測定結果を説明する際に就業状況の聞き取りを職員が個別に行い、新たな就業先の紹介等に役立てることができました。終了後、会員職員共に有効であったとの声が多かったことから、これを機に、全ての会員が参加し毎年開催している次年度更新説明会の開催内容の見直しを行い、こちらでも同様の職員による個別面談会を実施しました。

併せて、就業だけではないシルバー事業の発信も各種事業活動を通して積極的に行いました。

#### ①えるワークさんむの周知活動

各種事業でこの名称を使用し、会員だけではなく市民の皆さんへもチラシ等を利用し周知活動を行いました。

#### ②全国シルバー人材センター協会の掲げる会員 100 万人計画

令和5年度末会員数を486人と設定しましたが、残念ながら数値には至らず終了しましたが、若干ではありましたが会員数を伸ばすことができました。

#### ③退会会員の抑制

平均年齢も年々加算され、会員の高年齢化が進んでいることで、加齢による退会や体調不良による退会希望者が増えています。就業だけではない事業展開を行うえるワークさんむとして、各種事業活動にも重点を置いていることからプラチナ会員への移行を呼びかけ、引き続き会員として事業に参加し地域社会とのつながりを持つことを推進しました。

#### ④定年退職者への呼びかけ

定年延長がうたわれる社会において、入会促進は厳しいものがありますが、企業へのチラシの設置等を行いました。

【会員状況報告】

	成東	山武	松尾	蓮沼	合計
入会	24	23	12	1	60
退会	18	27	8	0	55
会員数	188	160	83	28	457

【入会説明会参加者報告】 83人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
参加者	10人	8人	7人	4人	3人	5人
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者	6人	6人	5人	7人	9人	13人

【独自事業活動報告】

	すみれサークル	いきいきクラブ
就業実人員	13人	29人
就業人日	226人日	128人日
収入実績	304,603円	193,700円
活動内容	ふくろうストラップ、布草履、毛糸の帽子等作成と販売	サツマイモと黒豆の栽培及び収穫と販売

【プラチナ会員】 24人 (男性13人 女性11人)

【家族会員】 19人

(2) しるばあママ ～女性会員拡大～

女性会員が支える側の力を発揮できるよう関係団体の事業に参加をし、就業だけではない魅力の発進を行いました。女性会員数も若干ではありますが前年を上回り、積極的な事業展開の結果が出ました。

①しるばあママの周知活動

女性会員に慣れ親しんでもらえるよう「しるばあママ」のバッジを作

成し、女性会員に配布しました。

女性会員はバッジを付けて就業を行い、市民の皆さんに関心を持ってもらえる活動ができました。

②すみれの輪の開催

市民も参加できるすみれの輪を女性部会が企画し、入会促進に役立てることができました。

③女性役員等の増進

女性の役員増員に向けた活動を行いました。

④高齢者支援や子育て支援の充実

若い世代への子育て支援サービスを行い、しるばあママの役割を発揮することができました。

⑤すみれサークル活動

定期的に女性会員が集まり交流を持つことで、体調不良等により就業が難しくなった女性会員も引き続きこの事業に参加し、各種小物づくりを通して交流活動を行うことができました。

【介護予防・日常生活支援総合事業】 受注実績 1件

支援が必要な高齢者に対し、ヘルパー資格のある会員が家事援助の支援を実施しました。

【すみれの輪】

	月 日	会 場	内 容	参加者
第1回	6月27日	築地・明治座	日帰り旅行「観劇」	30人
第2回	10月11日	松尾IT保健福祉センター	布リースの作成	20人
第3回	1月16日	松尾IT保健福祉センター	健康教室	18人
第4回	3月6日	蓮沼交流センター	料理教室「ちらし寿司」	25人

【子育て支援事業】

子育て支援を要する若い世代のお手伝いとして、家事援助サービスを複数の女性会員が交代で支援を実施しました。

多胎妊産婦サポーター 受注実績 3件

ママ家事サポート 受注実績 2件

### 【ボランティア活動報告】

	山武地区	成東地区	蓮沼地区	松尾地区
月 日	6月7日	9月25日	10月4日	10月24日
会 場	山武福祉作業所、 睦岡作業所、 山武福祉センター	しらはたこども園	蓮沼交流センター	松尾 IT 保健 福祉センター
内 容	植木草刈草取清掃	草刈草取	草刈草取	草刈草取
参加者	33人	15人	10人	17人

### (3) 「健康になる就労」プロジェクト

平均年齢が毎年上昇傾向にある会員が、明るく元気な100歳へ向けた取り組みの実施方法を健康面に視点を置き、定期的に安心安全就労アドバイザーとの協議を行い、各種事業を推進しました。

#### ①安心安全就労サーベイ（測定会）の開催

令和4年度に引き続きこの事業を実施し、就業に必要な生活機能を自分自身で知るための測定会を開催しました。また、この会を運営するための運営スタッフも38人の会員ボランティアにより行い、専門職が測定する項目以外は会員が行うことで、測定される側も測定する側も同じ会員同士であることで、和やかに実施することができました。最終面談では、結果の説明だけでなく、就業状況等の確認も職員が個別に対応をし、その後の就業に役立てることができました。

併せて、この先の就業に必要なスマホ相談コーナーも併設し、デジタル強化へとつなげることもできました。

#### ②わたしの健康プラス（生活機能測定会）への協力

えるワークさんむ独自の安心安全就労サーベイの開催に向けた運営準備のため、年間を通し高齢者福祉課で主催するこの測定会の運営協力を会員のボランティア協力により行いました。65歳以上の市民が参加する測定会であることから、参加者へのシルバー事業ピアール活動も行いました。

#### ③いきいきわくわく教室とはなまるサロンへの協力

転倒骨折予防プロジェクトの1つであるこの事業に、山武市社会福祉協議会と図書館と共同で行い、関係機関との連携強化に努めました。この事業も会員のボランティア協力を得て実施することができました。

④「健康になる就労」プロジェクトチームの発足

えるワークさんむの安心安全就労アドバイザーである日本医科大学衛生学公衆衛生学准教授の陣内裕成先生ご指導のもと、定期的にメンバーによる打合せを行い、安心安全就労サーベイの開催やわたしたちのレッスン会等のプロジェクトを進めました。また、事故事例検討会として安全委員会との連携も始め、会員が安心して就業できる環境作りへの整備を始めました。

【安心安全就労サーベイ】

会場：松尾 IT 保健福祉センター  
多目的室

月日：9月11日～15日  
5日間開催

参加者内訳	参加者数
初回参加者	82人
2回目参加者	75人
関係者（会員以外）	13人
合計	170人

(4) デジタル化推進事業

高齢者が安心してスマホを操作し、日常生活を豊かにするだけでなく、災害時等であっても必要な情報を入手できるよう、会員講師によるテーマに沿ったスマホ教室を開催すると共に、個別に対応するスマホヘルプデスクを開設し、デジタル化の推進を行いました。

①スマホ教室の開催

偶数月にスマホ教室を年5回開催し、奇数月にはスマホヘルプデスクを設置し、スマホ操作に慣れてもらえるよう行いました。

②SMS を利用した情報発信

事業の案内等、郵送では間に合わない情報について SMS を使用して発信しました。

③スマホ操作によるアンケートの実施

昨年度から始めたアンケート方法ですが、情報の取得の観点からすれば有効な手段であるため、同様の手法にて行いました。

④ホームページの充実

事業の参加呼びかけや開催報告の掲載だけではなく、就業不足分野での就業の呼びかけ等も行いました。①のスマホ教室では、えるワークさんむホームページへの閲覧ができるよう学んでもらえる場を設けました。

【スマホ教室参加者数】

	5月	8月	10月	12月	2月	合計
参加者	11人	6人	5人	11人	5人	43人

## (5) 安全就業

安心安全な作業のため、安全委員会が中心となり事業活動を行いました。特に、全国的に増加傾向にある飛び石による事故対策について、外部講師による草刈安全講習会を開催し、安全性が低いナイロンコードによる使用禁止を、安全委員会で検討しました。

### ①草刈による飛び石事故の削減

残念ながら草刈就業時の飛び石による事故が2件発生しました。幸いにも大きな事故につながることなく済みましたが、安全性重視の徹底を引き続き呼びかけだけでなく、周囲への影響が大きく大事故にもつながる恐れのあるナイロンコードの使用不可を令和6年4月からと決定しました。

### ②交通安全教室の開催

全国交通安全運動の実施に伴い、会員への交通安全の呼びかけや必要な情報を発信しました。

### ③ペナルティー制度導入の検討

安全委員会で幾度となく協議を行い、まずは安全意識の向上を重視したナイロンコードの使用不可を決定し、ペナルティー制度の導入については引き続きの検討項目となりました。

## 【事故報告】

請負就業	傷害事故	物損事故
事故件数	2件	3件

派遣就業	傷害事故	物損事故
事故件数	0件	0件

## (6) 組織体制の充実

インボイス制度の導入については、必要な情報を入手し制度導入の10月開始に合わせて事業体制を整備しました。

### ①適正就業の推進

厚労省の適正就業ガイドラインに基づいた事業運営を行うため、役員へ適正就業の研修会や、会員への説明を行いました。対応が必要な発注者に対しては個別に訪問を行い、適正就業への理解を求めました。

### ②関係機関との連携強化

市役所を始めとした関係機関との連携を図り、事業が円滑に実施できる

よう努めました。

③各種研修会への参加

インボイス制度導入や新しい契約方法に対応できるよう必要な研修会に積極的に参加しました。

④役職員研修の開催

理事監事には適正就業についての研修会を開催し、組織運営に役立てることができました。

⑤インボイス制度への対応

令和5年10月から始まったインボイス制度について、全シ協からの資料提供や研修会等に参加し準備を進め、予定どおりに対応することができました。

⑥さんむ SDGs パートナー

チラン等によりパートナー宣言を結んでいることを、ピーアールしました。

⑦職員研修の実施

円滑な事業運営推進のため、デジタル化等の研修会に参加し、職員間で情報共有を行いました。